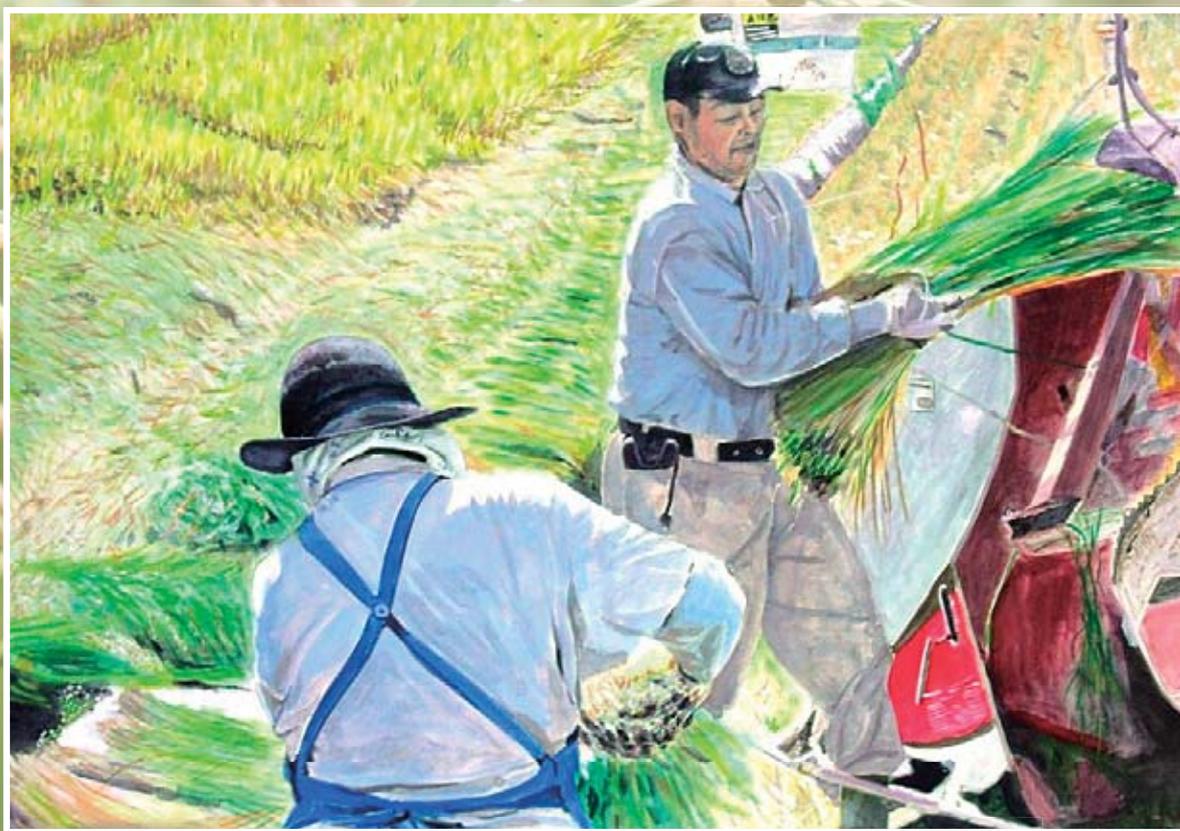


第35回



ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



農林水産大臣賞 図画3部 「恵みの稲」
山形市立第九中学校3年 西田 知世さん



平成23年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

第35回 「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○文部科学大臣賞

(作文 2 部) 瀬川 隼矢 庄内町立余目第四小学校 6年

○農林水産大臣賞

(作文 3 部) 石森 泉 鶴岡市立鶴岡第四中学校 3年

(図画 3 部) 西田 知世 山形市立第九中学校 3年

○学校奨励賞

庄内町立余目第四小学校
鶴岡市立鶴岡第四中学校
山形市立第九中学校

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞	寺崎 亜寿美	大石田町立大石田小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	佐藤 流偉	鶴岡市立朝日小学校	1年
優 秀 賞	後藤 美空	米沢市立愛宕小学校	1年
	菅原 菜央	鶴岡市立朝陽第二小学校	1年
	鈴木 駿佑	大石田町立大石田小学校	2年
	會田 空翔	山形市立出羽小学校	3年
	鈴木 花凜	米沢市立南部小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	工藤 暢晃	庄内町立余目第一小学校	4年
山形県農協中央会会長賞	菅原彩花里	鶴岡市立朝日小学校	6年
優 秀 賞	伊藤南奈美	鶴岡市立朝日小学校	4年
	長沼龍之介	高島町立糠野目小学校	4年
	斉藤 健	真室川町立平枝小学校	5年
	齋藤 元希	大石田町立大石田小学校	6年
	小林 一樹	寒河江市立幸生小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	小野 茜	朝日町立朝日中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	菅井 滯	朝日町立朝日中学校	3年
優 秀 賞	井上 玲	米沢市立第三中学校	1年
	大橋 鉄郎	米沢市立第四中学校	1年
	坂野 涼子	米沢市立第一中学校	2年
	江部ひふみ	米沢市立第四中学校	2年
	杏澤 佑樹	山形市立第三中学校	3年

●学校奨励賞

大石田町立大石田小学校
朝日町立朝日中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	柴崎 真人	最上町立富沢小学校	3年
山形県農協中央会会長賞	加賀 悠大	鶴岡市立朝陽第二小学校	1年
優 秀 賞	高橋 龍馬	大石田町立田沢小学校	1年
	鈴木 来春	尾花沢市立尾花沢小学校	2年
	笹原 実莉	尾花沢市立福原中部小学校	2年
	五十嵐一樹	尾花沢市立常磐小学校	3年
	西塚 優太	尾花沢市立玉野小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	森谷 康平	山形市立出羽小学校	6年
山形県農協中央会会長賞	小幡 圭佑	尾花沢市立福原中部小学校	5年
優 秀 賞	星 竜成	米沢市立西部小学校	4年
	佐藤 一貴	天童市立成生小学校	4年
	五十嵐友寿	鶴岡市立櫛引南小学校	5年
	佐藤 俊貴	鶴岡市立西郷小学校	5年
	押野 尚道	鶴岡市立朝陽第二小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	原田 拓夢	山形市立第九中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	荒井瑳絵子	山形市立金井中学校	2年
優 秀 賞	大滝 日菜	山形市立金井中学校	1年
	高橋 里沙	山形市立金井中学校	2年
	吉田 心	山形市立金井中学校	2年
	遠藤 千央	山形市立第九中学校	3年
	鈴木 里奈	山形市立第九中学校	3年

●学校奨励賞

鶴岡市立朝陽第二小学校
山形市立金井中学校



ごあいさつ

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

三十五回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文点四一五点、図画九〇六点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。全国コンクールでは、作文部門で文部科学大臣賞と農林水産大臣賞、図画部門で農林水産大臣賞を受賞するという素晴らしい成績を収めました。これもご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきとを見直してもらい、人々とのコミュニケーションをはかっていただくために実施しております。特に今年度は、本格デビューした「つや姫」の話題もあり、おいしいごはん・お米に、より注目していただけだと思えます。

皆さんの作品は、米作りのお手伝いを通じて感じた家族への感謝の気持ちを表現したものや、田んぼの生き物や稲をよく観察して思いをふくらませたもの、さらには、収穫そして食べる喜びを思い切り表現したものなど、個性豊かですばらしいものばかりでした。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦労や努力

山形県農業協同組合中央会

会長 今田正夫

を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。そして、家族を大切にしている心、自然を大切にしている心、生き物すべての命を大切にしている心を育み、いつまでも持ち続けてください。

さて、日本は、世界中の国々と貿易をおこない、多くの食べ物を輸入しております。食料自給率は四〇%と、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなるのが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことで考えています。

今、太平洋を囲む地域の国々が、関税をなくし自由な貿易をすることなどについて話し合いをしており、日本の農業はたいへん厳しい状況にあります。もし、日本が貿易自由化に参加すれば、広大な農地をもつ国々の輸入農産物により、日本農業は大きな打撃を受け、さらに、田畑の荒廃や今以上に食料自給率が低下することになります。JAグループは、日本の食料・農業・農村を守るための運動に、漁業団体や消費者団体、地方自治体と一緒に取り組んでいます。

また、私たちJAグループは、消費者のみなさんと一緒になつて、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを考え行動する「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでいます。日本人の主食である米をはじめとした日本型食生活の推進、地場産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大、安全・安心な農畜産物の提供に向けた取り組みに、今後一層努力をまいります。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。